

第29回 日本胎盤臨床医学会大会 開催にあたって

# 健康寿命を延ばせ！動けるからだとプラセンタ

大会実行委員長 中村 光伸

(光伸 (こうしん) メディカルクリニック 院長)

本医学会は、2007年の第1回大会から、プラセンタを積極的に使い、多くの患者さんに喜ばれている先生方の経験を集約し、かつ、さらなる普及と発展に努めてきました。近年では、基礎研究分野での新しい報告が毎年いくつもあり、プラセンタの価値が高まっていることを実感しております。

この度、大会実行委員長の任を仰せつかり、たいへん光栄に存じており、さらなるプラセンタ療法の理解と発展に努めていく次第です。ご協力いただくすべての方々に、あらためて厚く御礼を申し上げます。



さて、今回は大会テーマを『健康寿命を延ばせ！動けるからだとプラセンタ』といたしました。健康寿命の大切さは、近年よく耳にする言葉です。長寿は、医学が目指す一つのメインテーマですが、実際に高齢化社会になっていくと大切なのは健康寿命であり、これを幸福寿命という人もいます。高齢化社会の問題点は、ここで述べる必要もなく多くのメディアで取り上げられています。私は、「高齢化社会＝負の社会」ではなく、「高齢化社会＝多くの知的財産が満ち溢れている、正の社会」となるべきで、またしないといけなく、そこに医学の進む道があると考えています。医学が進むほど、多くの国が高齢化社会になります。高齢化社会になればなるほど、その国々が豊かになる形がないと、医学の進むべき未来が見えなくなってきます。その答えの一つが、『健康寿命を延ばせ！』であります。元気でパワフルな90歳が、その経験と知識をしっかりと若い70歳に伝授して生産性をガンガン上げる社会をイメージし、“高齢者は国の財産”“高齢者が多い国ほど素晴らしい国”となるよう、医師として活動したいです。

健康寿命を延ばすのは、身体のあらゆる機能を保全または復活しなければならない、たやすいものではありませんが、先ずのプラセンタは、アンカードラッグ(ドラッグが適切な表現かはなやむところですが)の一つになりうるものです。今回の大会では、アンカードラッグになぜなりうるかを考えていただきたく、講演と演題をそろえました。

招待講演は、全身の細胞に必要な血管と健康の話を、今メディアで一番注目されている池谷敏郎先生にお願いしました。そして、指定演題で、自律神経の話を長瀬真彦先生に、脳の話、菅原道仁先生に、更年期の話を宗田聡先生に、再生医療の間葉系細胞の話を藤宮峯子先生に、痛みの話を松岡修平先生に、防病と健身の話を中條明子先生に、伺えし、これからの医師には絶対必要な、患者を全身で捉える健康寿命への道、を考えるヒントになれば幸いです。

奮ってご参加くださいますよう、改めてお願い申し上げます。